

2024 年度 企業家研究フォーラム賞選考について

企業家研究フォーラム賞審査委員長

柏 谷 誠

選考の経緯

2024 年度企業家研究フォーラム賞においては、著書の部では推薦のあった 5 作品および寄贈のあった図書 7 作品の中から審査員によって選ばれた計 10 作品、論文の部では推薦のあった 2 論文、『企業家研究』に期間中に掲載された 5 論文、寄贈のあった 2 論文の中から審査員によって選ばれた 8 論文について、2 段階の審査、3 回の審査委員会議（メール審議およびオンライン審議）において、丁寧かつ慎重な審査および審議がなされ、結果として下記の受賞者を決定した（敬称略）。なお特別賞については推薦がなかった。

著書の部

舟 津 昌 平（東京大学）著

『制度複雑性のマネジメントー論理の錯綜と組織の対応ー』

（白桃書房，2023 年 3 月）

授賞理由：制度とは公式・非公式のルールや信念の体系であるが、組織間ではもとより営業と技術など組織内において考え方が異なっていることがある。本書は、制度を運用する論理を制度ロジックとし、その違いがコンフリクトをもたらしている状態を制度複雑性としてとらえ、科学と事業のコンフリクトとイノベーションに与える影響に焦点を当てている。本書では、複雑性に対処するために制度には分化していく傾向があり、対立しがちなロジックが生まれるのであるが、それをなんとかやりくり（manage）していくことが経営そのものであり、イノベーションにつながるという見通しを事例研究を通じて明らかにしており、企業家研究フォーラム賞にふさわしい力作と評価された。

論文の部

横 山 恵 子（関西大学）・小 室 達 章（金城学院大学）・山 本 義 郎（東海大学）著

「NPO の事業承継における創設者シンドローム」

（『企業家研究』第 21 号，2023 年 2 月）

授賞理由：本論文は、日本の NPO の事業承継において、引退してもなお残存する創

設者の影響力が組織成果に負の影響を与えるという創設者シンドロームが、当てはまるかどうかを検討したものである。その結果は、創設者の影響力の残存が事業承継にマイナスに作用する可能性が高く、またトップから部下に権限移譲がなされ、組織の分業化が進んでいることは、創設者シンドロームを緩和する傾向にあるというものである。本論文はNPO法人に対してなされたアンケートをもとに考察したもので、概念の構成が明確で、統計的分析もしっかりしており、事業承継において創業者の影響を考慮すべきであり、負の影響を除くには組織体制を整えるべきであるという実務的インプリケーションもあり、企業家研究フォーラム賞を授与するに十分値すると評価された。

特 別 賞

受賞者なし。